

戦後日本農村における国家の介入と農家生活の変容に関する研究
——生活改善普及事業と農業機械化の検討を通じて——

岩島 史

(京都大学大学院農学研究科博士後期課程／日本学術振興会特別研究員)

芦田 裕介

(京都大学大学院農学研究科博士後期課程)

2012年11月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

要旨

戦後日本農村の変動過程においては、生産＝男性、生活＝女性という近代家族的な性別役割分業を伴う農政の介入により農家生活という親密圏の場のあり様が著しく変容した。本研究では、戦後農政の基盤が築かれた戦後復興期から高度経済成長を経た 1970 年代までを主な対象として、生活改善普及事業などによる農家の再生産領域への介入と、農業機械化による生産領域への介入という両面に注目した。そして、生活改善と農業機械化それぞれの先進地である長野県と岡山県における事例研究にもとづき、このような介入に対して農家がいかに対応したのかを明らかにし、その結果としての農家生活の変容を分析することを試みた。本研究によって、農政の介入に対する農家の対応の結果として、女性が「家庭生活の責任者」と位置づけられ、農業生産において男性中心主義が強化されてきたことが明らかになった。

キーワード：農業機械化、農村生活改善、政策介入、ジェンダー

2011 年度次世代研究「戦後日本農村における国家の介入と農家生活の変容に関する研究——生活改善普及事業と農業機械化の検討を通じて——」（研究代表：岩島 史）による成果である。

【メンバー】（ ）内は 2011 年度プロジェクト時点

岩島 史（京都大学大学院農学研究科博士後期課程／日本学術振興会特別研究員）

芦田 裕介（京都大学大学院農学研究科博士後期課程）